

中期事業計画【2022-2026】

公益財団法人 日本ゴルフ協会

2022年4月



これまでの振り返りと当計画の全体方針

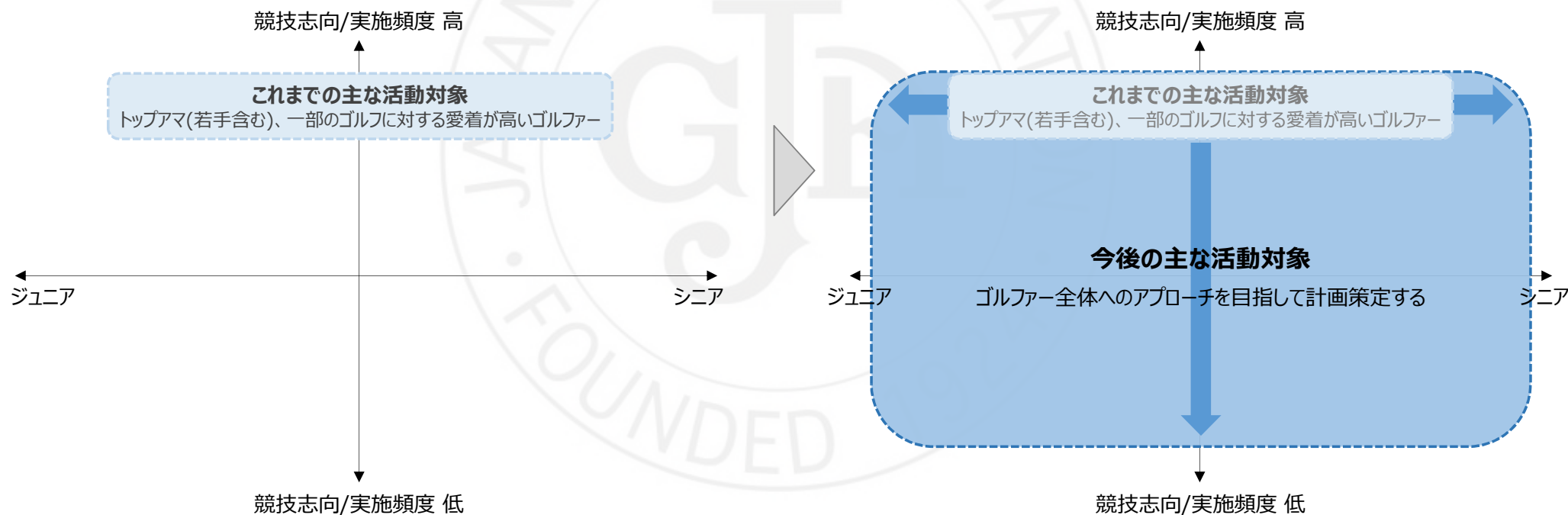
- これまでJGAは国内ゴルフの統括団体ではあるが、競技志向の強いまたは実施頻度が高い一部のゴルファーのみにしかアプローチすることが出来ていなかった。
- 当中期計画を策定するにあたってより多くのゴルファーにアプローチすることを全体方針として検討を進める。

これまでのJGAの活動

これまでのJGAの取組では競技ゴルファー等を中心とした**一部のゴルファーのみにしかアプローチ出来ていなかった。**

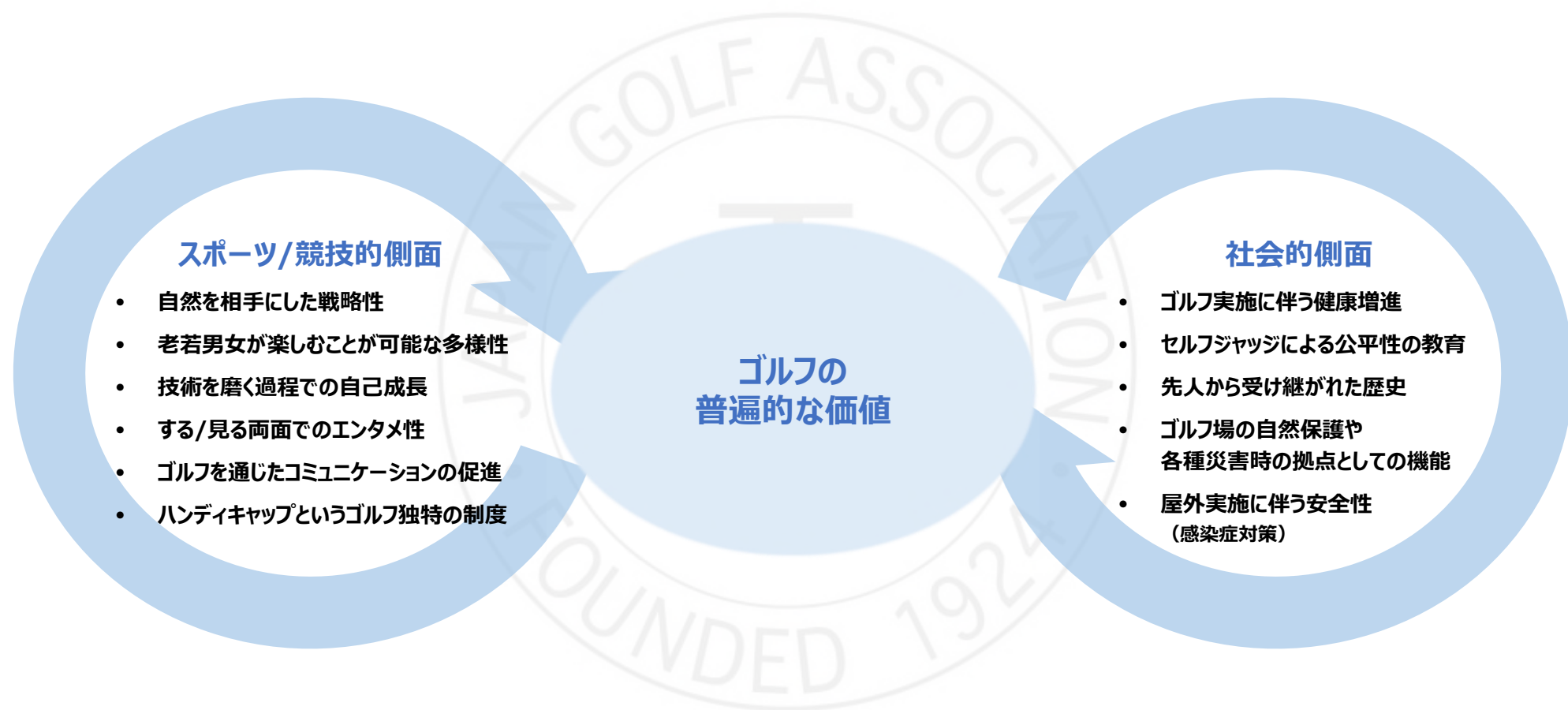
中計検討の全体方針

これまで培ってきたJGAが有する資産を活かし、加盟団体・ゴルフ場や関連施設などと連携することで**より多くのゴルファーへアプローチすることを目指す。**



JGAが掲げるゴルフの普遍的な価値

- 活動対象を拡大するにあたり、JGAではスポーツ/競技及び社会的な両側面から成るゴルフの価値を再定義し、当中期計画で定める各種の取組を通じて、多くの人に伝えゴルファー人口を拡大することで価値の最大化を目指す。



中期ビジョンと中期活動方針

JGA
設立目的

ゴルフの健全な発展と普及を図り、もって国民体力の向上、
社会・文化の発展並びに国際親善に寄与すること

中期
ビジョン

普及面

ゴルフの伝統・歴史を継承しつつ、
健康増進や社会的交流の促進など
ゴルフの新たな価値を創出し、
持続可能なゴルフ文化の醸成を目指す

競技力面

スポーツ医学やテクノロジーの活用などを通して、
世界レベルで活躍する選手と選手を支える指導者を
継続的に創出する環境を整備する

中期活動
方針

「Respect the past, Create the future」をテーマとして掲げ、
これまでの歴史を踏まえ新たに「普及振興」、「強化育成」またそれらを実施するうえで
土台となる「経営基盤強化」の3つの観点での取り組みでゴルフ界の発展を目指す

普及振興

既存ゴルファー活性化のためにHDPCの活用とゴルフと健康にまつわる情報発信
等を通じた実施促進とプレイ期間の延伸、新規ゴルファー創出のためにイメージ
改善と接触機会の提供に取り組む

強化育成

幅広い選手を対象に多角的な育成環境を整備することで次世代のトップ選手
の育成・輩出を実現、また指導者育成に取り組むことで継続的な競技力向上
が可能になる環境を整備する

経営基盤強化

強化育成および普及振興を支える土台として、内部統制の強化（ガバナンス・コンプライアンス・危機管理）、財務基盤の強化など持続可能な経営基盤を構築する

各領域の取組テーマ

- 中期事業計画の実現に向けた要として、下記の取組テーマの推進に注力する。
- 普及振興および強化育成の更なる推進に取り組み、両者を支える土台として持続可能な経営基盤を構築する。

領域	取組テーマ	概要
普及振興	<ul style="list-style-type: none">➤ 既存ゴルファーの活性化➤ 新規ゴルファーの創出➤ ゴルフを取り巻く環境改善➤ ゴルフ振興推進のためのインフラ整備	<ul style="list-style-type: none">• 既存ゴルファーの体験満足度を高め継続性を高める• 年齢、性別、ゴルフに対する愛着度等の切り口で明確なターゲットを設定し、ゴルフとの接触機会を創出する（R&Aの女性憲章に関するプロジェクト等）• ゴルフのイメージアップや各種制度の見直しでゴルフを始めやすい、続けやすい環境を整備する• 情報発信のプラットフォームやゴルファーの管理基盤整備による持続的なゴルフ振興を可能にするインフラを整備する
強化育成	<ul style="list-style-type: none">➤ 世界で戦う選手の育成➤ 準トップ選手の育成環境整備	<ul style="list-style-type: none">• 既存の取り組みをベースに引き続き五輪候補選手、ナショナルチーム、地区強化指定選手を対象に強化育成を推進する• 強化育成プログラムの展開と指導者育成に地区連盟と連携して重点的に取り組み、準トップ選手の競技力の底上げを推進する
経営基盤強化	<ul style="list-style-type: none">➤ コンプライアンス強化➤ リソース強化	<ul style="list-style-type: none">• ガバナンスコードに基づき組織の運営を改善する• 普及振興・強化育成を実現するための経営資源を強化する



普及振興

普及振興における課題

- 各ゴルファー層ごとに、普及振興上の課題は異なる。また、ゴルフを取り巻く環境自体にも課題が存在。
- ゴルフ振興推進本部を中心に、課題解決に向けた取り組みを推進していく。



*1 競技ゴルファー層は主に強化の活動対象

*2 市場調査の結果をもとに記載(一部)

普及振興の全体像

- 「既存ゴルファーの活性化」と「新規ゴルファー創出」のために地区連盟・都道府県連盟やゴルフ関連団体等と連携しゴルフ界全体での普及促進をリードする。
- また持続的な普及振興活動を実施するためにゴルフを取り巻く「環境の改善」と普及振興をより推進していくための「インフラ整備」に取り組む。

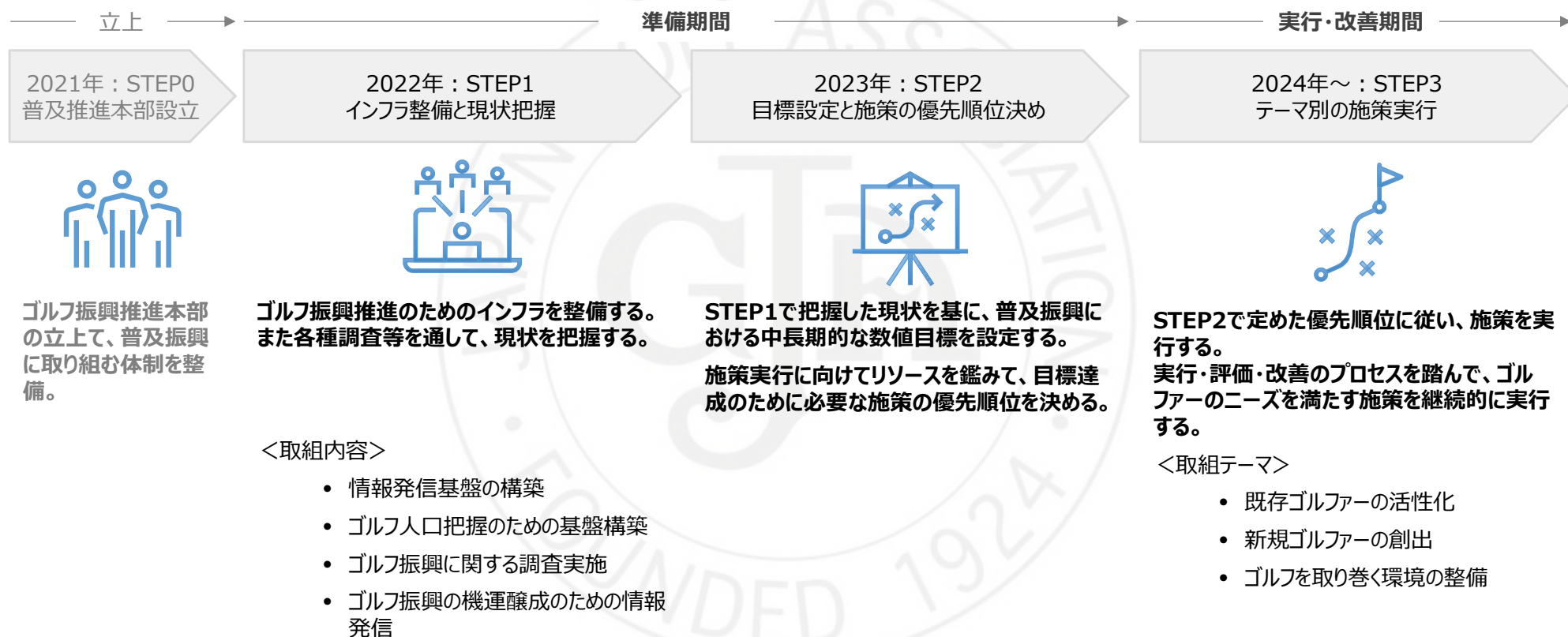


*1 競技ゴルファー層は主に強化の活動対象

*2 優先度については現状調査後に変更する可能性有

普及振興におけるロードマップ

- まずは普及振興をより効果的に推進するためのインフラ整備と現状把握に取り掛かり、普及振興をより効果的に推進するための課題の明確化と課題解決に向けた環境を整える。
- その後目標設定と取組の優先順位を定め、継続的に施策の実行・改善を行うことで普及振興を推進する。



普及振興の中期方針

- 各テーマごとに中長期的な目標として目指す姿を掲げ、その実現に必要な打ち手を実施する。数値目標については現状把握が完了次第、現状を踏まえた目標（KGI）を設定する。
- 一部HDCPの様に既に目標を立てて取り組んでいる項目についてはKPIを設定する。

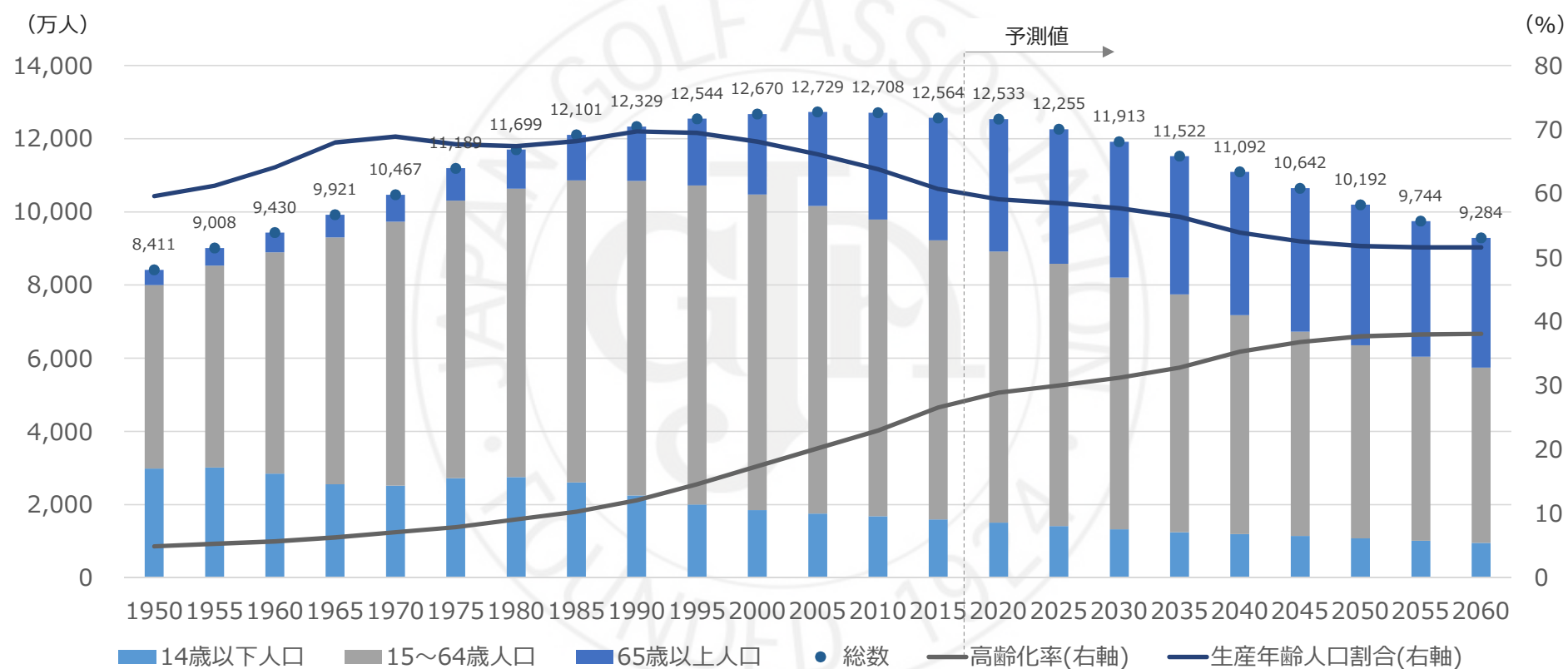
取組テーマ	目指す姿	打ち手	KPI項目	KPI
既存ゴルファーの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ▶ プレー回数を増やし生涯を通じてゴルフを楽しむ人を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ハンディキャップ（HDCP）の活用促進 ▶ ゴルフの健康への好影響に関する情報発信 ▶ ゴルフの様々な楽しみ方を用いる機会の提供 ▶ 障がい者ゴルフの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ① HDCP取得者数 ② 離脱年齢の延伸 ③ ゴルフ実施者数 ④ 障がい者ゴルファー数 	<ul style="list-style-type: none"> ① J-sys登録者100万人 インデックス取得者90万人*1 (2026年時点) ②～④*2
新規ゴルファーの創出	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 老若男女が自分なりのゴルフの魅力を見つけ、楽しみやすい環境を創出する 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ターゲット別の新規ゴルファー獲得施策 <ul style="list-style-type: none"> - 初心者向け情報の発信 - デジタルツールを活用した接触機会創出 - 女性のゴルフ振興憲章に基づく施策実行 	<ul style="list-style-type: none"> ① 新規ゴルファー増加数 -ターゲット別の獲得数 	<ul style="list-style-type: none"> ① ゴルフ場来場者数8,600万人 ※ユニークゴルファー数の現状把握が困難なため、インフラ整備後に目標を再設定する
ゴルフを取り巻く環境改善	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ゴルフイメージを改善し、またゴルフの持続性を高めるための環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 情報発信と制度改革によるゴルフのイメージ改善 <ul style="list-style-type: none"> - 国家公務員倫理規定の見直し - ゴルフ場利用税の見直し - 芝草研究と教育研修プログラムの提供 - ゴルフ殿堂ミュージアムの管理・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育研修プログラム参加者数 ② ゴルフ実施意向者の増加数 	<ul style="list-style-type: none"> ①～②*2
ゴルフ振興推進のためのインフラ整備	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ゴルフに誰もが接触しやすいよう情報発信の基盤を整え継続的にゴルフに関する情報を発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ゴルファープラットフォーム（GPF）の設置による情報発信基盤の整備 ▶ GPFを通じた情報発信 <ul style="list-style-type: none"> - イベント情報やゴルフに関する各種調査結果を発信 ▶ ゴルファーの実態把握のためのゴルファー管理基盤整備 	<ul style="list-style-type: none"> ① GPFの設置 ② GPFのPV数 ③ ゴルファー管理基盤への登録人数 	<ul style="list-style-type: none"> ① - ②～③*2

*1 2020年から2021年の成長率（J-sys登録者108%、インデックス取得者113%）で推移する想定で設定

*2 現段階では現状把握が困難なため、インフラ整備と現状調査を実施した後に明確な数値目標を設定する

(参考) 我が国の高齢化の推移と将来推計

- 生産年齢人口は1995年をピークに減少に転じており、生産年齢人口割合は2020年には59.1%であるが、2055年には51.6%にまで減少すると見込まれている。
- 総人口も国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によれば、2055年には1億人を下回ることが予測されている。



(出典) 総務省統計局「国勢調査結果」* 7、国立社会保障・人口問題研究所 (2017)「日本の将来推計人口」を基に作成

普及振興における役割分担

- ゴルフ振興推進本部が普及振興全体をリードするが、関連する委員会及び部署においても普及振興を必要性を認識した上で主体的に事業運営をすることが重要である。

関連委員会・部署

普及における役割

ゴルフ振興推進本部

- 普及振興における取組を全体的に統括する
- JGA内部の関連部署及び外部の関連団体との連携を図り、ゴルフ界一丸となった普及振興活動をリードする
- 女子ゴルフ憲章部会においては、女性ゴルファーの獲得に向けた調査、施策検討・実行、特にWomen's Golf Dayの振興や各地区連盟と連携し女性をターゲットとしたゴルフを実施する機会創出をリードする

ハンディキャップ委員会
ハンディキャップ部

- ハンディキャップ制度の管理・運用を実施する
- WHSへの切り替えを完了させ、ゴルファーに向けたハンディキャップ取得促進のための情報発信・イベント実施等をリードする

広報委員会
広報部

- ゴルフ及びJGAに関する情報発信を行う
- ゴルフのイメージアップにつながる情報発信を企画し、各種チャネルを活用した多角的な情報発信をリードする

オープン事業委員会
競技委員会
競技部

- 各種競技の運営を行う
- オープン競技の再興、既存ゴルファーのゴルフ実施機会増進のための競技会の企画運営、また従来の形式に留まらない様々な形式でのゴルフ競技の企画運営をリードする

※その他適宜、取組内容に応じてJGA内の各部署と連携を図る



強化育成

強化育成の現状と課題

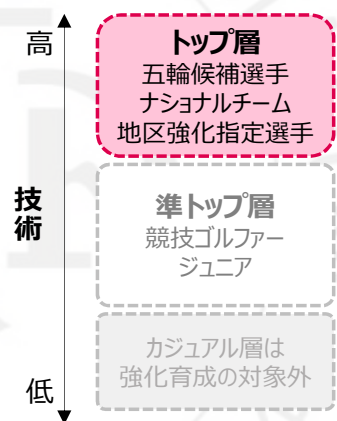
- 2014年の世界アマチュア選手権後から推進している地区強化選手からナショナルチーム(以下NT)までを対象とした強化プログラムの改革によってナショナルチームを中心に好成績を残し始めている。
- 今後はゴルフ界全体で競技力の向上に取り組むために、指導者の育成や関係団体との連携が必要となる。

現状

取組	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 2015年からNT運営組織体制の改革を推進 <ul style="list-style-type: none"> - NTヘッドコーチのもとに競技力向上に必要な観点毎の専門家を配置し、包括的な強化育成体制を構築 - 海外NTでの豊富な指導経験と実績を有するヘッドコーチの招聘 ➢ 五輪に向けた先進的な取り組みの推進 <ul style="list-style-type: none"> - 属人的な勘や経験に因らない科学的な強化育成のアプローチを実践 - 強化指定選手によるスポーツサイエンスの活用を推進
成果	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 世界ランキング上位30位以内に複数選手がランクイン ➢ 各種海外試合での好成績 <ul style="list-style-type: none"> - 男子：アジア競技大会団体、個人での金メダル獲得 等 - 女子：世界女子アマチュア団体2位、アジア女子アマチュア優勝、2020年東京オリンピック銀メダル獲得 等 ➢ 東京五輪に向けた取り組みを通して強化育成プログラムが発展・充実

課題

一部のトップゴルファーが主な活動対象となっており、**トップ層への引き上げに向けた活動は限定的**



- 高い競技力を有するトップ選手への強化育成施策は順調なため、オリンピックでの金メダル獲得を目指しさらに推進する
- 今後は、準トップ選手の競技力向上も必要
 - 将来の**トップ選手の増産**とより**多くのゴルファーの競技力向上**のため、トップ選手を目指す次世代選手の育成が必要

解決の方向性

- 次世代選手の育成について、地区連盟と協力しつつ推進
- 指導体制の強化のための**指導者育成**
- トップ選手の強化は現状の取り組みのさらなる発展を促進

トップ選手に向けた強化育成は円熟し取り組みの成果が実りつつある

強化育成の全体像

- 本中期計画では、トップ層に加えて、準トップ層に対しても強化育成活動を推進していく。
- 「世界で戦う選手の育成」「準トップ選手の育成」を大きな方針として掲げる。

強化育成の活動対象

- する人(トップ層・準トップ層)および支える人(指導者)のそれぞれについて取り組みを推進

する人	トップ層	五輪候補選手	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本最高峰の選手 <ul style="list-style-type: none"> - 国内最高の実力と実績を有し世界的な舞台での活躍が期待される選手
		ナショナルチーム	<ul style="list-style-type: none"> ● 次世代の担い手 <ul style="list-style-type: none"> - 若手アマチュアで次世代をけん引することが期待されるゴルファー
		地区強化指定選手	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地区選抜の競技ゴルファー <ul style="list-style-type: none"> - 全国各地区で選抜された特に優れた競技ゴルファー
	準トップ層	競技ゴルファー(学生など)	<ul style="list-style-type: none"> ● さらなる高みを目指す競技参加者 <ul style="list-style-type: none"> - 競技大会への参加の意向が強くさらなる実力の向上への意欲が高いゴルファー
		ジュニア	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴルフの将来を担う若手ゴルファー <ul style="list-style-type: none"> - 将来的な競技ゴルファーとして早くからゴルフに親しみ実力を伸ばしている選手
	支える人		指導者

強化育成の取組テーマ

- 強化育成に向けて下記の2つの方針に基づき施策を実施する。

取組テーマ

世界で戦う選手の育成

準トップ選手の育成環境整備

活動概要

- **既存の取り組みをベースに強化育成を推進**
 - オリンピックでのメダル獲得等、世界的な舞台における活躍に向けてトップ層の実力のさらなる強化に取り組む
- **強化プログラムを広範に展開、トップ選手に引き上げ**
 - トップ選手の育成の経験により作られた強化プログラムを広く展開し準トップ層の選手強化を推進
- **適切な指導が可能な指導者の養成**
 - 自身の経験や勘ではなく、科学的な根拠に基づきゴルファー個々の特性に適した指導を行うことが出来る指導者の増加
- **地区連盟等と協力し有望選手を発掘**
 - 地区連盟を中心とした各地方組織と連携し、準トップ層選手の発掘と支援を実現

- **引き続きトップ選手の国際大会での活躍に向けた取り組みを推進**
- **準トップ層に向けた指導者の育成と地区連盟等との連携による強化プログラムの展開に注力**

参考：強化育成における重点項目

- 本中期計画では、準トップ選手をトップ選手に引き上げることを目的とした取り組みを特に重視する。
- 中期的に取り組む重点項目として「指導体制の強化」「強化プログラムの展開」を設定する。

	重点項目	項目設定の背景	目指す姿	強化への効果
準トップ選手の育成環境整備	指導体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 準トップ層の指導者が不足 <ul style="list-style-type: none"> - 勘や経験などの属人的な判断基準に因らずに科学的なアプローチを実践できる指導者が必要 - スキルの向上に加え精神面の強化や人間的な成長を促すことのできる指導者が不足 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 科学的なアプローチによる競技力の向上 <ul style="list-style-type: none"> - 科学的な観点・手法に基づいた強化育成の取り組みを実践 ▶ 指導者による選手の正しい指導 <ul style="list-style-type: none"> - 指導者による選手の競技力の向上に加えてスポーツを通じた人間的・精神的成長を実現 	<ul style="list-style-type: none"> • 再現性の高い指導方法による効果的・効率的な競技力の向上
	強化プログラムの展開(各地区)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 強化プログラムの活用不足 <ul style="list-style-type: none"> - トップ選手向けの強化プログラムは様々な競技大会に向けた取り組みを経て作成が完了している - しかし、準トップ選手への展開が進んでおらず、強化プログラムが十分に活用できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 国内トップ選手の増加 <ul style="list-style-type: none"> - 準トップ選手の実力を引き上げることでトップ選手を増やし、日本のゴルフの競技力を向上 - 強化プログラムにより競技力を向上することで、準トップ層でゴルフキャリアを終えることなくさらに上を目指すことができる環境を整備 ▶ 各地区の指導力の強化 <ul style="list-style-type: none"> - 強化プログラムの活用により各地区における強化育成の活動をさらに高度化・活性化 	<ul style="list-style-type: none"> • 有効性が実証された強化プログラムによる効果的な選手強化の実践

強化育成におけるロードマップ

- 強化育成においては、4か年ごとの目標設定を行い取り組みを推進するため当中期計画では2024年までの重点テーマとして策定する。
- これまで実施してきたナショナルチームでの育成強化プログラムのナレッジを活用して、選手及び指導者両面へのアプローチを行い、競技力向上を目指す。

STEP1
指導者育成プログラムの構築・実装



準トップ層への強化育成体制を整備するために2023年の実装を目指し、指導者育成プログラムの構築に取り組む。

<プログラム提供対象者>

- トップアマチュア選手の指導者

STEP2
強化育成プログラムの展開



これまではナショナルチームを中心に展開していた強化育成プログラムの対象を拡げ、地区連盟とも連携し、展開・浸透に取り組む。

強化育成の中期方針

- 各テーマごとに中長期的な目標として目指す姿を掲げ、その実現に必要な打ち手を実施する。
- 実行において、日本国内のゴルファーの競技力向上につながる評価指標（KPI）を策定し、強化育成を推進する。

取組テーマ	目指す姿	打ち手	KPI項目	KPI
世界で戦う 選手の育成	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 選手個人の要望に沿った強化プログラムを提供し、世界トップレベルの選手を創出する 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各ターゲットのゴルファーの要望に沿った強化プログラム提供（海外拠点選手への支援強化を含む） <ul style="list-style-type: none"> - 五輪候補選手 - ナショナルチーム - 地区強化指定選手 	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本ツアー勝率（26年時点） ※2015年以降強化対象者 ② 世界ランキング（26年時点） ③ パリ五輪 	<ul style="list-style-type: none"> ① （男子）勝率 40% （女子）勝率 65% ② （男子）50位以内 3人 （女子）15位以内 4人 ③ （男子）メダル獲得 （女子）メダル獲得
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 科学的なアプローチに基づいた指導者育成の環境を整備し、継続的に国内トップ選手を創出する仕組みを整える 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 指導体制強化（重点項目） <ul style="list-style-type: none"> - 指導者ライセンス制度の導入 - 部活指導者の育成 ▶ 強化プログラムの展開（重点項目） <ul style="list-style-type: none"> - ジュニア育成 - 地方組織との連携強化 ▶ 競技大会の活性化 ▶ 海外からのナレッジ強化 ▶ 競技引退後のセカンドキャリア整備 	<ul style="list-style-type: none"> ① 指導者ライセンス制度の確立 ② 指導者ライセンス取得者数 ③ JOCアカデミー修了者数 ④ 強化プログラム参加者数 	<ul style="list-style-type: none"> ① - ② 30人 ③ 3人 ④ 200人

強化育成における役割分担

- 競技者育成強化部が強化育成全体をリードし、JGAに加盟している各地区連盟と連携し、選手の強化・育成プログラムを広範に展開していくことを目指す。

関連委員会・部署

ナショナル強化委員会
競技者育成強化部

指導者育成委員会

強化育成における役割

- 強化育成における取組を全体的に統括する
- JGA内部の関連部署、ヘッドコーチ、各トレーナー等の専門家、加盟地区連盟団体との連携を図り、ゴルフ界一丸となった強化育成活動をリードする
- 指導者育成における計画・取組の実行を統括する
- 各地区連盟と連携して、各地区への強化プログラムの展開を通して指導者育成をリードする

※その他適宜、取組内容に応じてJGA内の各部署と連携を図る



經營基盤強化

経営基盤強化の中期方針

- 本中期計画では、ガバナンス対応の強化に引き続き取り組む他、普及振興と強化育成の深化に向けたリソースの強化についても取り組みを推進していく。

現状・課題

中期方針

ガバナンス強化

- 組織運営に関わる中長期計画を策定（本誌）
- 適切な組織運営のための体制確保
 - 取り組み例：経験領域や性別などの観点から役員の多様性を確保、各種委員会の役割を整理・立ち上げを推進 等
- 規程等の見直し・改正による形骸化の防止
 - 定款の修正による業務内容の明確化
 - 複数の規程間の整合性の検証と更新を実施

- **コンプライアンスの強化**
 - 中央競技団体として求められる適合性審査を基準にさらなるガバナンス強化を推進
- **地区連盟等との関係強化**
 - 地区連盟を始めとした地方組織からのガバナンス面に関する相談への対応

リソース

- | | |
|----|---|
| ヒト | ➤ 人手の確保が必要 <ul style="list-style-type: none"> - 業務の専門性が高く人材が不足 |
| カネ | ➤ 財務状況の改善が必要 <ul style="list-style-type: none"> - 新規の取り組みを進める財政基盤が不十分 - 現状のスポンサーシップや各種事業では財務を十分に支えられない |

- **人材の有効活用**
 - 外部人材や短期人材の活用
 - 業務効率化によるリソースの捻出
- **財政基盤の強化**
 - 主催競技におけるスポンサープログラムの再検討、スポンサー獲得推進
 - ナショナルチームのアセットを活用した新たな収益基盤の構築
 - 公益財団法人としての寄付金収集の活性化

課題

- 健全な運用体制の構築に向けた取り組みは順調に進んでいるが、**ガバナンスコードの徹底に向けてはさらなる改善が必要**
- 普及振興および競技力向上の取り組みを支えるため、**リソースの強化が必要**

- **中長期的なガバナンスの強化に向けコンプライアンスの強化に注力**
- **普及振興および競技力向上に向けてリソースを確保**

経営基盤強化におけるロードマップ

- ガバナンスコード遵守に向けた対応を進めることで、団体としてのガバナンス強化に取り組む。
- また、普及振興・強化育成の取組を進めるためにも収入を増やし収益基盤を強化することは重要課題であるため、主催競技に係るスポンサープログラムの再検討に取り組む。

STEP1 ガバナンスコード遵守に向けた対応



ガバナンスコードに関する適合性審査を基準に対応を進め、競技団体としてのガバナンス整備に取り組む。

<優先対応テーマ>

- 地区連盟対応
- JGA内部のコンプライアンス強化推進

STEP2 収益基盤強化および人材の有効活用



各種活動の原資となるリソースを確保するために、収入増加を中心とした収益基盤強化に取り組む。

<優先対応テーマ>

- 主催競技のスポンサーシッププログラムの再検討
- ナショナルチームのアセット活用による収益獲得

経営基盤強化における役割分担

- 総務委員会及び総務部が強化育成全体をリードし、JGAのガバナンス強化に取り組む

関連委員会・部署

財務委員会/
法務委員会
総務部

競技委員会
オープン事業委員会
競技部

ナショナル強化委員会
競技者育成強化部

普及における役割

- 経営基盤強化における取組を全体的に統括する
- JGA内部の関連部署との連携を図り、まずはガバナンスコード対応を中心とした経営基盤強化活動をリードする
- オープンを始めとする主催競技における収益向上の取組を統括する
- 主催競技におけるスポンサープログラムを始めとした財政基盤強化に繋がる収益獲得のための活動をリードする
- ナショナルチームが有するアセットを活用した収益獲得の取組を統括する
- ナショナルチームが有するアセットを整理し、アセットを活用した収益獲得のためのビジネスモデル構築の活動をリードする

※その他適宜、取組内容に応じてJGA内の各部署と連携を図る

その他各部の取組事項

- 普及振興、強化育成、経営基盤強化と直接的な関わりは薄いが統括団体として果たすべき役割を全うするために現状実施している取組にも引き続き取り組む。

関連委員会・部署

役割

規則委員会
規則部

- 規則の更なる普及を推進する
- 正しいゴルフ規則を通じて公正・公平な競技の普及を実現すべく、規則情報の発信や規則普及活動の実施、ならびにレフェリー制度の確立を実施する

外交委員会

- 各国ゴルフ関連団体との連携を推進する
- 普及振興に関わる海外のゴルフ界の動向・事例を収集し、国内での活用に向けて情報を整理する

広報委員会
広報部

- JGAの活動に関する情報発信を統括する
- JGA及び加盟団体の活動に関する情報発信をリードし、JGAのイメージ改善、ゴルフの普及に関する幅広い情報発信によるゴルフ及びゴルフ界のイメージ改善に取り組む